

- 獸血を合板接着剤に利用する一試み 脇田勝之 (4 號: 45~49 頁),
 木材類の接着に関する研究 第 1 報 アセトン-ホルマリン樹脂の接着剤への應用 (其の 1)
 野津龍三郎・後藤良造・香西保明 (4 號: 50~61 頁), (其の 2) 後藤良造・香西保
 明 (4 號: 62~65 頁)
 醋酸石灰の熱分解について 田中穆・館勇 (5 號: 1~7 頁, 昭 25)
 パルプ蒸解機構に関する研究 第 1 報 クラフト法蒸解における Na_2S の消費量について
 (北尾弘一郎 (5 號: 8~14 頁))
 ハゼ枯株心材に孔腐状白色朽を基因するカタウロコタケの一生態種の研究 赤井重恭・逸見
 武雄 (5 號: 15~29 頁)
 腐朽に対する 2~3 針葉樹材の比較抵抗力に就いて 赤井重恭・日比野勝己 (5 號: 30~36
 頁)
 木材腐菌に対するブナ材の比較抵抗力に就て 赤井重恭・永友勇 (5 號: 37~42 頁)
 2~3 木材腐朽菌の BAVENDAMM 反應に就て 赤井重恭・寺下隆喜代 (5 號: 43~48 頁)
 金属-木材合板に関する研究 第 1 報 鐵-木材合板の強さ 藤野清久・堀野恒雄
 (5 號: 49~54 頁), 第 2 報 アルミニウム-木材合板の強さ 藤野清久・廣田輝次
 (5 號: 55~62 頁)

雜 錄

京 都 大 學 木 材 研 究 所 概 要

1. 沿 革

本研究所は昭和 19 年 (1944) 5 月に創設された木材の総合的研究機關であつて、我國森林資源の利用を徹底的に合理化する爲に、關係各學部の協力を得て、木材の諸性質を物理的、化學的並に生物學的に検討する一方、木材の加工技術並に用途についても常にその科學的な究明に最善の努力を拂いつゝある。

開設當初は研究施設の新營は殆んど不可能であつたので、僅かに本學農學部の一部を以て創業の已むなき状態であつたが、戦後幸にも京都府下東宇治町の舊陸軍造兵廠宇治製造所の一角、敷地 約 35000 坪、建坪 約 2000 坪の地を選定することを得、近く正式に移管される予定であり、既に一部の研究員は同所にあつて研究の實を擧げつゝある現状である。

2. 機 構

本研究所は所長教授梶田茂以下教授専任 1 名、兼任 5 名、助教授専任 3 名、兼任 3 名、講師 1 名、助手 5 名、技官 1 名、研究生 4 名、事務官 2 名、雇員 9 名、傭人 3 名、計 36 名を擁し、総合的研究を行う必要上木材物理、木材化學及び木材生物の 3 部門

に夫々3, 3, 2ヶの研究室をもつて研究組織となしている。

3. 研究内容

- (1) **木材物理第1研究室** 所長教授梶田茂自ら主任となり以下4名が主として木材の物理的性質の究明に従事している。
- (2) **木材物理第2研究室** 教授満久崇麿以下3名によつて主として改良木材及び木材乾燥に関する研究が行われている。
- (3) **木材物理第3研究室** 助教授杉原彦一以下2名によつて主として木材切削理論並に木工機械に関する研究を實施中である。
- (4) **木材化学第1研究室** 教授館勇, 助教授北尾弘一郎, 講師木村良次以下3名により主としてパルプ及び製紙に関する研究が行われている。
- (5) **木材化学第2研究室** 教授井上吉之, 助教授小野寺幸之進以下3名によつて主として木材防腐劑及び塗料, 鋸屑の化学的利用に関する研究が行われている。
- (6) **木材化学第3研究室** 教授小西行雄 助教授後藤良造以下1名によつて主として木材接着劑特に合成樹脂に関する研究が行われている。
- (7) **木材生物第1研究室** 助教授貴島恒夫以下2名によつて主として木材の組織及び微細構造に関する研究が行われている。
- (8) **木材生物第2研究室** 教授赤井重恭以下によつて主として木材腐朽及び腐朽菌に関する研究を實施中である。

4. 木材工業界との連繫

本研究所の研究成果は報告書“木材研究”並に本誌“木材研究資料”によつて發表せられる外, その内容によつては夫々關係の學會誌, 業界誌等にも登載せられることは勿論であるが, 技術との一層直接的な連繫をはかる爲に年數次の“木材研究所集談會”を開催して木材工業家との懇談を重ねている外, 研究員は適宜外部の研究委員会等に參加する等の方法を以て, 合板, テックス, 鐵道枕木, 紡織木管, 鉛筆, パルプ及び製紙, 接着劑, 防腐劑, 木工機械其他既に夫々その業界に對してかなりの貢獻を爲して來ている。

5. 將來の企畫

- (1) 研究部門の充實 本研究所現在の3部門8研究室各々の充實は云うまでもなく將來更に研究部門の擴充分科を圖ると同時に, 中間工場的試験室所謂パイロットプラント等をも計畫中である。
- (2) 木材博物館の建設 内外の樹種を極力蒐集して材鑑を完備すると共に, 木竹製品を網羅整備して, 研究員は勿論, 廣く一般の參考に資する意氣込みである。
- (3) 樹木園の整備 木材利用の面から見た樹木園の存在は必ずや特殊の威力を發揮すべきは誰しも予想するところである。この点については本研究所はまことに恵まれた環境にあり, 優に4000坪に余る土地には着々見本樹, 試料樹の植栽撫育を進めつつある。